

日本看護歴史学会 會報

日本看護歴史学会
第14号
1993年3月25日

遺された看護を尋ねる

——イーデイス・キャベルの場合——

小玉香津子

看護史に名の残る人々の生涯には看護とは何か必ず刻み込まれており、彼らの生涯を一人また一人とたどり重ねることによって看護の全容がよりよく見えてくる。もともと、見えてくるからと言って喜んでばかりはいられない。重苦しい側面を突き付けられて頭を抱えることもある。イーデイス・キャベルの場合がそれである。

私が彼女を知ったのは十五年ほど前、セイマーの『看護史』をベルギーの項まで読み進めた時だった。第一次世界大戦さなかに連合軍側のスパイとみなされドイツ軍により射殺された、というたったの一行が何と衝撃的であったことか。しかし、数年後に高見安規子

氏「イーデイス・キャベルの生涯」に教えられるまで事の子細はわからなかった。ベルギー最初の看護学校とその病院を託されていたイギリスの看護婦キャベルは、開戦と同時にスタッフともども赤十字に組み入れられ、戦時篤志看護婦養成と敵味方区別のない看護活動とに専念した。彼女は開戦時には休暇で帰国していたのだが、すぐにベルギーにもどったのだった。看護が自分の義務だったからである。やがて彼女は反ドイツの地下組織とつながり、自分の病院で回復したイギリス兵やフランス兵がオランダ経由で自由圏へと逃げるのを助け始める。帰国せよとのドイツの命令

にもかかわらず留って脱出援助を続け、ついには患者ではない兵士をも病院に囲まい脱出させるようになる。それは、交戦国の人々を援助するにあたり中立を守るというジュネーブ条約の一項に反する行為であった。周囲の危惧の高まりのうちに逮捕、軍事裁判、そして処刑。この間自分のしたことを一切否定せず、法的助言も求めず、ただ部下の看護婦達を気遣い、信仰を支えに毅然として二か月の独房に生き、自分は義務を果たさうとした看護婦であるにすぎない、と念を押して逝った。

およそこのように知った折しも、看護理論家会議を見聞に出かけたカナダで私はキャベル山に出会う。カナダはロッキーマウンテンの山々の一つにチャーチルなどと並べて彼女の名をつけ、その行為を称えているのだった。いや、理論家会議はその場限りで忘れたがキャベル山は後を引き、調べてみれば彼女への敬虔なまなざしは世界的なものだった。その頃また、彼女はやはりスパイだった、それは違う、と看護誌に論争が現れたりもした。

しかし、私が彼女を尋ねるのは事の真相を知りたいからではない。看護婦として義務を果たさうとしたことがすなわち彼女の行為であっ

たこの意味を問わずにはいられないからである。通念あるいは規定などを越えた高みに自らを置いて義務を果たす看護婦というものに思いを馳せるからである。

彼女における看護をつかまえた。それにはキャベルその人をもっと身近に感じることだ。

一昨、昨年と私は彼女の墓に参った。故郷ノーフォーク州のノリッジ大聖堂である。墓は一月はプリムラ四月はヒヤシンスで埋めつくされていた。大聖堂では毎年十月の命日に、『キリストにならいて』生きた彼女の名を冠した礼拝が行われるという。奇蹟を起こした聖人達に伍すイーデイス・キャベルが、一歩街に出ると「捕虜を助けた愛国者」キャベルのイメージが色濃い。風景の交錯が看護婦キャベルを尋ねる私を迷わせる。

この年頭には彼女が訓練を受けたロンドン病院に行ってみた。往時はドックの労働者、今は移民があふれる市の東端に救貧院の面影を残してそびえるロンドン一の大病院。ここが義務に命をかけた看護婦の出発点であった気配が確かにある。そして、やはり彼女がいた。病院教会地下、開かれて間のないミュージアム兼資料館に。まるで語りかけてさえくれそうに。

第七回大会開催予告

期日

八月二十八日(土) 二十九日(日)

開催地

神戸市勤労会館

(JR三宮駅の近くです)

メインテーマ

「医制一二〇年 産婆制度を考える」

講演予定者

大林道子氏(女性問題研究者)

高橋みや子氏(千葉大看護学部)

その他の講師は交渉中

一八七四年(明治七)に東京・京都・大阪に医制が發布されてから、来年で一二〇年となります。医制の中に産婆に関する条項があり、その資格や職務を定めています(看護婦の規定はみられない)。そこで今回は、産婆制度についてとりあげることにしました。

今年初めて神戸市で開催します。皆さまの年間予定の中にぜひこの大会を加えて下さり、多数の方が参加されますようお願いしています。二日目の昼食時間には、サンドイッチパーティを予定しております。一言つけ加えますと、港町神戸の夜を親しい方々と共に楽しむこともできます。

研究報告演題募集

第七回大会での研究報告を募集します。毎年、応募者が少ない状態ですので、今年は今から準備されて、多くの方が応募して下さいることを期待します。

応募要項

- 1 研究報告のテーマ
- 2 要旨(研究目的、史料収集の方法、結果及び結論等の概要を、原稿用紙二、三枚にまとめたもの) 縦書き
- 3 締切り 六月末日

分科会話題提供者募集

- 1 内容 研究テーマ
要旨・呼びかけ(百字内)
- 2 締切り 六月末日

大会の詳細、研究報告と分科会話題提供の申込方法については、会報の次号でお知らせします。

参考メモ①

- 一八七四(明七) 医制
- 一八九九(明三二) 産婆規制
- 一九四二(昭一七) 国民医療法
- 一九四七(昭二二) 助産婦規則
- 一九四八(昭二三) 保健婦助産

婦看護婦法

一九九二年度幹事選挙 投票結果報告

投票率二二・七%

投票期間一九九二年十月一日から一九九三年一月一日で、第三期幹事選挙が行われました。

投票者五二名、うち七名連記者一名で、総得票数五一七票、無効票なし、投票率二二・七%でした。各会員の得票数は左記の通りです(氏名一敬称略、得票数)。

- 亀山美知子 四七票、山本捷子 三八票、吉川龍子 三四票、ライダー島崎玲子 三三票、藤村龍子 三二票、高橋みや子 二九票、依田和美 二二票、鶴沢陽子 二一票、氏家幸子 一九票、五十嵐節 一八票、山崎雅代 一七票、小玉香津子 一六票、渡部尚子 一六票、武藤美知 一三票、青木うめ子 一一票。以上が十五位までですが、以下は票数ごとにまとめて報告致します。
- 一〇票一高田節子、九票一草刈淳子、福本恵、六票一小平政子、岡山寧子、玄田公子、高嶋妙子、都築公、四票一遠藤恵美子、川口孝泰、川島みどり、花島眞子、三票一岡崎寿美子、加藤光宝、木村秀昭、坂本玄子、菅原スミ、鈴木美恵子、

中込仁、二票一上岡澄子、浦野シマ、神永侑子、小南吉彦、佐山光子、須藤知子、祖父江育子、田中幸子、泊祐子、淵井喜美恵、古崎すみえ、山田重子、吉崎弘之、一票一伊藤幸子、上野ミユキ、宇佐美千恵子、江崎フサ子、大蔵多恵子、大島絃子、大村春子、片岡千雅子、門脇ツヤ子、金井悦子、上條美昭、岸本多恵子、小山千加代、坂下貞子、佐藤サツ子、白川康一、瀬戸口要子、瀬戸文代、高岡スミ子、高橋典子、田中多津子、多原佐藤民子アンジェラ、内藤寿喜子、中村明美、花岡真佐子、宮里和子、武藤勝治、村山惟子、山田要子、吉田弘子。以上の通りでした。

なお、二月末日までに上位の各氏宛に、幹事就任の可否を問合せます。上位十名が決定しました上で、次号に第三期幹事(任期三年一九九三年度〜一九九五年度)として発表致します。

選挙管理委員

- 鶴沢陽子
- 花島眞子
- 滝沢道子



